

基本情報			
科目ナンバー	KCI1-416-33-0	開講年次	1年生
年度・学期	2024年 第4ターム	曜日・時限	月曜 3限
担当教員	三澤 純	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	8
時間割所属	教養教育 (58)	時間割コード	A6230

学修成果とその割合	
1.豊かな教養	30 %
2.確かな専門性	0 %
3.創造的な知性	30 %
4.社会的な実践力	0 %
5.グローバルな視野	30 %
6.情報通信技術の活用力	0 %
7.汎用的な知力	10 %

詳細情報																
講義題目(テーマ)	核兵器の歴史と未来 1 一小さな発見から爆弾投下までー															
使用言語	「日本語」による授業															
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト (Moodleに講義資料及び課題フォームを掲示する。)															
授業の形態	講義															
対面・遠隔の別	対面形式															
授業の方法	対面方式															
授業の目的	核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語ることが出来るようになることを目指します。 2021年1月22日、核兵器禁止条約が発効しました（2017年7月7日、国連総会で採択）。これは人類史上初めて、核兵器を法的に禁止し、その廃絶を目指すとした国際条約です。しかし、世界で唯一の戦争被爆国である日本は、この条約に署名していません。2017年当時、この条約について話し合う会議に不参加を表明した日本政府代表の座席には「wish you we are here」と記された折り鶴が置かれていたそうです。															
授業の概要	核兵器禁止条約は、核を「非人道的な絶対悪」とみる素朴な人間の感覚を出発点としています。そうした中、このような日本政府の態度は、果たして国際社会で受け入れられるものでしょうか？そもそも広島・長崎への原爆投下から既に75年が経過し、核廃絶の世論が地球規模の広がりを見せているにもかかわらず、なぜ今日の地球上には、人類を幾たびも絶命させる大量の核兵器が存在しているのでしょうか？本講義で、一緒に探っていきましょう。															
実務経験を活かした授業	非該当															
学修目標	A水準（到達すれば「優」に相当） ①原爆の開発過程を詳細に説明できる。 ②原爆の開発と第二次世界大戦中の国際政治との関連性を具体的に説明できる。 ③原爆投下地点の選定理由を明確に説明できる。 C水準（到達すれば「可」に相当） ①原爆の開発過程を説明できる。 ②原爆の開発と第二次世界大戦中の国際政治との関連性を説明できる。 ③原爆投下地点の選定理由を説明できる。															
評価方法・基準	学期末試験（80%）と開講期間中に実施する2回のレポート（20%）とを総合的に判断して評価します。															
履修条件	特にありません。															
各回の授業内容と事前・事後学習	<table><tr><th colspan="3">各回の授業内容と事前・事後学習</th></tr><tr><th>回</th><th>授業テーマ</th><th>内容概略</th></tr><tr><td>1</td><td>核分裂発見の人類史的意味 物理学者たちの苦悩と責任</td><td>核分裂現象発見の歴史の意味について考える。 核分裂発見に関わった物理学者たちの苦悩を浮き彫りにするとともに、彼らの関に課についても考える。</td></tr><tr><td>3</td><td>イギリスからアメリカへ</td><td>核兵器開発の最前線が、イギリスからアメリカへ移ったことの歴史の意味を考える。</td></tr><tr><td>4</td><td>マンハッタン計画の展開</td><td>マンハッタン計画の展開過程を詳述する。</td></tr></table>	各回の授業内容と事前・事後学習			回	授業テーマ	内容概略	1	核分裂発見の人類史的意味 物理学者たちの苦悩と責任	核分裂現象発見の歴史の意味について考える。 核分裂発見に関わった物理学者たちの苦悩を浮き彫りにするとともに、彼らの関に課についても考える。	3	イギリスからアメリカへ	核兵器開発の最前線が、イギリスからアメリカへ移ったことの歴史の意味を考える。	4	マンハッタン計画の展開	マンハッタン計画の展開過程を詳述する。
各回の授業内容と事前・事後学習																
回	授業テーマ	内容概略														
1	核分裂発見の人類史的意味 物理学者たちの苦悩と責任	核分裂現象発見の歴史の意味について考える。 核分裂発見に関わった物理学者たちの苦悩を浮き彫りにするとともに、彼らの関に課についても考える。														
3	イギリスからアメリカへ	核兵器開発の最前線が、イギリスからアメリカへ移ったことの歴史の意味を考える。														
4	マンハッタン計画の展開	マンハッタン計画の展開過程を詳述する。														

回	授業テーマ	内容概略
5	原爆対日投下策の決定過程 1	原爆を日本に投下するまでの政治過程を詳細に検討する。
6	原爆対日投下策の決定過程 2	原爆を日本に投下するまでの政治過程を詳細に検討する。
7	原爆投下目標都市の選定	日本における原爆投下目標都市が絞り込まれていく過程を分析する。
8	1945年8月6日と8月9日	原爆投下の瞬間を、被爆者の手記から再現する。

授業外学修時間の目安 本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されています。授業は16時間分（2h×8コマ）となるため、29時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となります。

キーワード 核開発、原爆被害、科学技術、現代社会

【SDGs】
SDGsについては
[こちらから](#)



テキスト なし。毎回、レジュメと資料プリントを配布する。

参考文献 西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』（青木書店、1968年）
荒井信一『原爆投下への道』（東京大学出版会、1985年）
この史代『夕凧の街 桜の国』（双葉社、2004年）
山口亘『ヒロシマ・ナガサキ 二重被曝』（朝日文庫、2009年）

**オフィス
・アワー**

この項目は熊本大学ポータルにログインしている者にのみ表示されます。（学外者には表示されません）

**担当教員への
連絡方法**

この項目は熊本大学ポータルにログインしている者にのみ表示されます。（学外者には表示されません）

担当教員からのメッセージ 2011年、本講義は、（財）ヒロシマ平和文化センターから、「広島・長崎講座」に認定されました。これにより、熊本大学は、世界で47番目、日本国内で31番目の「広島・長崎講座」開講大学となりました。